

令和 5 年 5 月 20 日現在

機関番号：37125

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10597

研究課題名（和文）都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価

研究課題名（英文）Development and evaluation of a social capital coordinator training program for Urban Semi-Marginalized Communities

研究代表者

眞崎 直子（Masaki, Naoko）

聖マリア学院大学・看護学部・教授

研究者番号：40548369

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：都市型準限界集落における自助・互助の住民力を高めるため、一般住民を対象にソーシャルキャピタルコーディネーター（以下SCCとする）を育成するプログラムを開発・実施し効果を検証した。すなわち、民生委員をサポートする互助の住民支援とそれを推進する人材のニーズを明らかにすることを目的とした。第1段階で地域包括支援センター保健師へのインタビュー、第2段階で民生委員ニーズ調査を行い、第3段階でプログラムを構築し、第4段階でA市における20名の参加者を対象にプログラム参加前後のSCCの知識・意識・態度の変化による評価を行った。さらに、コロナ禍においては、アウトリーチ活動等工夫をし、継続した活動を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

少子高齢化の進展により、都市部においても高度経済成長期に造成した団地において、過疎・高齢化が進む地域が課題となっており、地域の互助力・住民力を高めることが求められている。都市型準限界集落において、民生委員をサポートするソーシャルキャピタルコーディネーターの人材育成プログラムの構築および実施前後の効果検証を行った。コロナ禍において、サロンを中心とした活動から個人へのアウトリーチ活動による見守り・声かけ等互助力の向上が認められ、地域全体のソーシャルキャピタル向上につながった。今後は、他地域への波及効果を期待し、今回の活動成果を第43回日本看護科学学会学術集会において交流集会を開催する予定である。

研究成果の概要（英文）：In order to increase self-help and mutual help in an urban semi-marginal community, we developed and implemented a program to train social capital coordinators (hereinafter referred to as SCC) for general residents, and verified its effects. In other words, the purpose of this study was to clarify the needs of mutual assistance for local residents who support local welfare officers and human resources to promote it. In the first stage, interviews were conducted with public health nurses at the Regional Comprehensive Support Center, in the second stage, a survey of the needs of local welfare officers was conducted, in the third stage the program was constructed, and in the fourth stage the program was conducted for 20 participants in City A. We evaluated the changes in SCC knowledge, awareness, and attitudes before and after participation. Furthermore, during the corona crisis, we are devising outreach activities and continuing activities.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：ソーシャルキャピタル コーディネーター 人材育成 都市型準限界集落 プログラム開発 民生委員 評価

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1．研究開始当初の背景

高齢化が進むこととあわせて災害が多発する今日、地域の自助・互助・共助の住民力を強め、地域特性に応じたソーシャルキャピタルの醸成が急務である。特に、都市部の郊外住宅団地で限界集落が増加しており、定年退職後の役割喪失による引きこもりや周囲からの孤立が課題となっている。研究代表者は、都市型準限界集落において、セルフケアとソーシャルキャピタル向上プログラム開発の評価に取り組んだ。その結果、民生委員が中心に行っている孤立しがちな援助希求のできない人の早期問題把握と解決に向けた支援が求められていた。

2．研究の目的

都市型準限界集落における自助・互助の住民力を高めるため、一般住民を対象にソーシャルキャピタルコーディネーターを育成するプログラムを開発・実施し、効果を検証する。すなわち、民生委員の困難事例について、調査を実施し、民生委員をサポートできる互助・共助の住民支援とそれを推進する要因を明らかにすることを目的とした。

3．研究の方法

第1段階として、地域包括支援センター等保健師へのインタビュー、第2段階は、民生委員ニーズ調査、第3段階プログラム構築、第4段階でプログラム実施前後の評価を行った。対象は、A市における一般住民に参加を呼びかけ、参加した20名（平均年齢71.45歳、男8名、女12名）である。研究期間は、2020年12月～2022年3月である。倫理的配慮は、聖マリア学院大学研究倫理審査を受け、実施した。

4．研究成果

プログラム開始前、終了後にSOSを出しにくい人々や家族への見守り・声掛けを民生委員とともに行うソーシャルキャピタルコーディネーターとしての知識・意識・態度について、評価を実施し、終了後3か月後にフォローアップとして郵送による実施・評価を行った。前後比較については、おおむね向上傾向にあった。その後のフォローアップとして、2021年10月にフォローアップ事業を実施した。そこで、感染拡大により、サロンでの活動、ソーシャルキャピタルコーディネーターとしての活動が制限されていること等情報交換を行い、プログラム後の評価を行った。サロンでの情報収集では、ボランティアや通所者の方々の様子、相談の中でコロナによって生活状況等について、活動の制限などを聞いた。血压、健康づくりチェック表を実施し、自身の健康度をチェックした。参加者は、34名であった。その中で、参加者からの情報では、「緊急事態宣言中は何をすることもなく、体を動かす機会も減って気分の波があった」、サロンが再開し、「互いに声を掛け合って出てきている。」「周囲の声掛けなど、関わりやモチベーションの大切さを痛感した。」などの声が聞かれた。ボランティアの情報交換では、地域の防災対策における民生委員とソーシャルキャピタルコ

ーディネーターの連携・協働が重要であるとの意見が出された。

コロナ禍において、サロンを中心とした活動から個人々人へのアウトリーチ活動による見守り・声かけ等互助力の向上が認められ、地域全体のソーシャルキャピタル向上につながった。今後は、他地域への波及効果を期待し、今回の活動成果を第43回日本看護科学学会学術集会において交流集会を開催する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 眞崎直子	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 COVID-19とその社会的影響の中で生きる人々	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 自殺予防と危機介入	6. 最初と最後の頁 1,2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 眞崎直子, 松原みゆき, 林真二, 竹島正, 橋本修二, 三徳和子, 尾形由起子	4. 巻 25(2)
2. 論文標題 都市型準限界集落の防災健康危機管理についての住民の意識調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会	6. 最初と最後の頁 187-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 眞崎直子
2. 発表標題 都市型準限界集落ソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞崎直子
2. 発表標題 都市型準限界集落等地域におけるソーシャルキャピタル醸成支援
3. 学会等名 新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的流行下における 自殺予防・自死遺族支援のための学際的・共同研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoko Masaki , Miyuki Matsubara , Kazuko Mitoku , Tadashi Takeshima , Shuji Hashimoto ,
2. 発表標題 Development of Programs Social Capital and Improve Self-Care Capabilities in Urban Semi-Marginalized Communities
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020 . JAPAN . (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 眞崎直子、橋本修二、竹島正、三徳和子、松原みゆき、古賀聖典、
2. 発表標題 都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 眞崎直子、松原みゆき、榮田絹代、池田由宇子、三徳和子
2. 発表標題 都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoko Masaki , Miyuki Matsubara , Kazuko Mitoku , Tadashi Takeshima , Shuji Hashimoto , Yoshinori Koga , Kinuyo Sakaeda , Natsumi Imada , Akemi Abe , Yukiko Ogata
2. 発表標題 Development of Programs Social Capital and Improve Self-Care Capabilities in Urban Semi-Marginalized Communities
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020 . JAPAN (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 眞崎直子, 松原みゆき, 三徳和子, 池田由宇子, 榮田絹代
2. 発表標題 大学と地域協働による健康寿命の延伸とソーシャルキャピタル醸成支援
3. 学会等名 日本看護科学学会第39回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 眞崎直子, 今田菜摘, 松原みゆき, 池田由宇子, 竹島正, 三徳和子, 橋本修二, 榮田絹代, 古賀聖典
2. 発表標題 サロンを中心としたセルフケアとソーシャルキャピタル推進の実践
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会第78回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 編集眞崎直子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 クオリティケア	5. 総ページ数 79
3. 書名 公衆衛生看護学演習・実習（地域ケア実習）ソーシャルキャピタルの醸成を目指して増補版	

1. 著者名 眞崎直子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 クオリティケア	5. 総ページ数 79
3. 書名 公衆衛生看護学演習・実習（地域ケア実習）～ソーシャルキャピタルの醸成を目指して（増補版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹島 正 (Takeshima Tadashi) (20300957)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 公共精神健康医療研究部・客員研究員 (82611)	
研究分担者	三徳 和子 (Mitoku Kazuko) (60351954)	兵庫大学・看護学部・教授 (34524)	
研究分担者	松原 みゆき (Matsubara Miyuki) (20412356)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・准教授 (35414)	
研究分担者	古賀 聖典 (Koga Toshinori) (40779683)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・講師 (35414)	
研究分担者	榮田 絹代 (Sakaeda Kinuyo) (30758868)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・講師 (35414)	
研究分担者	今田 菜摘 (Imada Natsumi) (30803035)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・助手 (35414)	
研究分担者	池田 由宇子 (Ikeda Yuko) (70824879)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・助手 (35414)	
研究分担者	水馬 朋子 (Mizuma Tomoko) (30382378)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・教授 (35414)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	立森 久照 (Tachimori Hisateru) (60342929)	慶應義塾大学・医学部（信濃町）・特任教授 (32612)	
研究分担者	田中 貴子 (Tanaka Takako) (30881081)	聖マリア学院大学・看護学部・助手 (37125)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	松井 美佐子 (Matsui Misako)		サロン夢あじな代表

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関